

*4月(卯月)です。桜花爛漫の中、入学式・入社式・そして、新しい年度始めという会社も多く、皆が未来に夢を抱いてスタートするこの時期に、今年は新型コロナウイルスインフルエンザの強風が吹き荒れています。昨年末、最初に発生が確認されてから3ヶ月余りの間に全世界で報告されただけでも80万人の人に感染したことになります。海外では都市封鎖もあり、TVでは無人の街並みに恐怖を覚えます。医療崩壊が懸念されていますが、治療候補薬が出てきているニュースには希望がもたれます。必ず解決策が出てくることを信じましょう。今出来ることは、苦しくても行政の指示に従い、感染をstopさせることしかありません。

☆2020東京五輪も影響を受け、一年延期となりました。選手の皆様、また施設確保についても課題を抱えることが想像されます。スポーツ界のみならず、学校も、観光業、飲食業、そして国を支える経済界も、総てが未知との遭遇の世界に入りました。先ずは命を繋ぐことができてい事に感謝して、全力を尽くす他はありません。苦しみの中には必ず良いことが待っていると信じて、上を向きましょう。一年後に、素晴らしい五輪大会が開かれる事を祈ります。一つだけ、熱暑の夏、だけにはならぬ事を!!

*東港金属グループは非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を「いつでも」お受け致します。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



発行: 東港金属グループ
 編集: 東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <https://www.tokometal.co.jp/>
 (見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当

営業部 Y の考察

☆羅針盤 鉄・非鉄スクラップ・市況からの4月予測

鉄スクラップ → 考察) 3月は、指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格が20,000円/トンでスタートし、4日には500円/トン下がり更に28日に500円/トン下がり最終的には19,000円/トン。原因は新型コロナウイルスの影響で、世界的な経済活動の縮小減産で鋼材の取引減少が上げられます。また、トルコ向け輸出の相場下落も下げの原因です。4月は、現状では上がる見込みもなく、さらなる下げが予想されます。

銅 → 考察) 3月はLME5,500ドル/トン、国内銅建値640,000円/トンでスタート、17日に600,000円/トン、19日には50,000円/トン下がり、3年4か月ぶりのLME5,000ドル/トン割れ。最終的にはLME4,800ドル/台、国内銅建値580,000円/トン。原因は新型コロナウイルスの感染拡大。4月はウイルス感染の終息のめどがつかないためさらに下がると思われます。

アルミ → 考察) 3月はLME1,670ドル/トンでスタート最終的には1,540ドル/トンまで下落。4月は新型コロナウイルス問題の長期化により販売量の低下、自動車生産の休止からみて下がると思われます。

プラスチック → 考察) 4月から焼却場や埋立処分の処理単価が軒並み値上げ。しかも展開検査が厳格化されています。今後ますます選別の必要性が問われるでしょう。発火物等の異物混入物は行き場がなくなります。

予測つかず

3月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	×
銅	○	プラスチック	-



マイ・ウェイ 私の学生時代(2)

営業部 奥山 未央

こんにちは、東港金属 東京事務所の奥山です。前回の登場は2ヶ月前でしたが、その間に世の中はコロナウイルスの話題で持ちきりになってしまいましたね。これを書いている今(3/28)も、都内の感染者数が40人/日を超えたという報道がされています。楽しみにしていたコンサートやイベントも軒並み延期・中止となってしまう、大げさですがこれから何を生きがいにすれば良いのか…と悲壮感でいっぱいになってしまいました。個人で出来る事は健康を維持して予防に努めるくらいしかありませんが、早く終息してくれるのを祈るばかりです。

☆羅針盤 「カーボンフットプリント制度」

「カーボンフットプリント制度」をご存じでしょうか？
 カーボンフットプリント(Carbon footprint、以下CFPと記します)とは、文字通読めば「炭素の足跡」となります。ここでいう「カーボン(炭素)」とは二酸化炭素(CO2)のことを表していて、「フットプリント(足跡)」とは、その排出量を表しています。

CFPは私たちが常日頃、使用または利用している商品やサービスの「原材料調達→生産→流通→使用・維持管理→廃棄・リサイクル」に至るライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を、CO2 に換算して分かり易く表示し、温室効果ガスの排出削減手段としての仕組みの一つです。

同じように、製品のライフサイクル全体を通して環境負荷及びそれらによる地球や生態系への環境影響を定量的に評価する方法としてライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment:LCA)があります。LCAでは、CO2を中心とする温室効果ガスによる地球温暖化を始め、酸性化、富栄養化、資源枯渇などが環境影響のなかには含まれておりますが、CFP制度では、このLCAを使い、製品のライフサイクル全般で排出された温室効果ガスに対象を限定し、それらの温室効果ガスが地球温暖化に与える影響の程度をCO2 相当量に換算・合計し、表示する制度で、京都議定書で対象となっている6種類のガス(CO2、CH4、N2O、HFCs、PFCs、SF6)を対象としております。



日本でのCFPの表示は、右図に示す「カーボンフットプリントマーク」が使われており、事業者の自主的な取組みの象徴として表示することを目的としたマークです。このマークは、製品がその一生のうちに排出する温室効果ガスをCO2量に換算し定量的に「見える化」したもので、右図の例では12Kgを排出すると表示です。

基準は設けず可否も優劣も示さず、判断は購買者に任せております。

因みに、CPFマークのような環境ラベルは、各国の代表的標準化機関から成るISO(International Organization for Standardization:国際標準化機構)で、以下のように3タイプに分けて規格を制定しております。

タイプI(ISO14024) 第三者認証:
 第三者認証による環境ラベル(例・エコラベル)

タイプII(ISO14021) 自己宣言:
 事業者の自己宣言による環境主張

タイプIII(ISO14025) 環境情報表示:
 製品の環境負荷の定量的データの表示(例・CFPマーク) ▶

さて今回は、高校卒業後は美術関係の道を目指すのか目指さないのか〜というところまでお話しました。周りとの温度差に居心地の悪さを感じ、モチベーションは上がりませんが、授業に出席しないわけにもいかないで仕方なく出された課題はやります。が、作品を完成させるところまでたどり着けない→未完成のまま提出する…という有り様でした。当時の恩師に「完成しないのは罪だ!! 話にならない!!」とまで言われたのをよく覚えています。今考えても、そりゃそうだな、と思います。

受験の実技では、時間内に完成しませんでした〜なんて通用するほど甘くありません。自分が好きで始めたはずなのに、最後の方には描くのも何もかも嫌になってしまいました。そんな状態で進学を考えられず、結局は全く別ジャンルの専門学校へ進学しました。業界内ではそこそこ大手の、服飾専門学校です。

お世辞にも真面目に勉強してきたとは言えませんでしたので、進路を決めるにあたってなるべく受験勉強をしなくても良い学校にしよう、などという考えで進路を探しました。受ければ誰でも入れるであろう試験だったので、私にはうってつきました。被服製作(服をデザインしたり作ったり)の授業をとっており、趣味の延長の域を出ませんでしたがこれもなかなか面白かったので、このまま極めてみても面白いのでは? と思い、受験を決めました。そして、無事合格。

もし当時に戻れるのであれば、全力でこの選択を止めます。高校時代最初からすべてやり直したいと今でも考えます…。

詳細はまた次回。ありがとうございました。

▶ CFPの表示を希望する事業者の方は、「(一社)サステナブル経営推進機構」にお問い合わせいただくことが良いと思いますが、手順としては①製品分野ごとのCFPの数値算定ルールPCR(Product-Product Category Rule)を策定し認定を受け、②このPCRに基づきCFPを算定し検証を受けて、登録・公開となります。また、CFPマーク使用許諾契約を行うことでCFPマークを使用できます。

カーボンフットプリント使用許可及び出版:
 (一社)サステナブル経営推進機構(SuMPO) <https://www.cfp-japan.jp/>
 出典:LCAとカーボンフットプリント (一社)産業環境管理協会 石塚 明克